

a 学校教育目標	ふるさとを愛し、鍛えよ『知・徳・体』	b 経営理念（ミッション・ビジョン）	【ミッション】 （自校の使命） ・社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】 （自校の将来像） ・主体的な学びが育まれる学校 ・夢や志があり、誰もが通ってみたい学校 ・地域の活力の源として、信頼される学校
----------	--------------------	--------------------	---

評価計画						自己評価					改善方針		Ⅰ 学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	1月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	評 価			コ メ ン ト	
						h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力の育成	主体的・対話的で深い学びの創造	自ら学ぶ中で の学力向上	○子供たちが対話を通して、考えや表現を向上させる場の設定 ○ファシリテートを意識した授業の実施 ○R80(アールエイティー)による振り返り ○実力テストや生徒アンケートに基づく授業改善 ○学習用端末の効果的な活用による授業改善 ○小中連携による授業研究	生徒アンケート「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり上げたりすることができていますか」の肯定的評価の割合	80%	89.4%	89.4%	100.0%	A	前期に引き続き、子供たちが対話を通して、考えや表現力を向上させる授業研究を全教科で実施した。また、学び合いの実態について、具体的に生徒を見取り、校内研修で共有や協議を行うことを継続したことで、各教科の授業改善や共に学び合う集団づくりにつながり、前期の達成値を維持することができた。	○今年度の研究授業の協議で明らかになった生徒の学習状況やつまづきを全教員で共有し、授業改善につなげていく。 ○さらに、ファシリテートしながら個別に生徒を支援していくことにより、生徒自らが主体的に学ぶ中で学力を向上することができるよう取組を進めていく。	○			○学びあう学習集団ができてきていると感じた。 ○3学年とも授業の雰囲気良かった。 ○生徒の深い学びにつながるよう取組ができていると思う。	
		共に学び合う 集団づくり		実力テスト(年間2回実施)の1教科あたりの平均点	県平均以上	1年: -9点 2年: +6.2点 3年: -1.5点	1年: -13.5点 2年: +7.0点 3年: -9.7 点	33.3%	D	中学1年生と中学3年生が県平均を大きく下回った。特に、1年生は県平均との差が大きく、学力をつけるために継続的で重点的な取組が必要である。	1年間の研究協議を踏まえ、生徒理解・C層の生徒への支援を継続すると同時に、中・上位層の学力向上に向けて授業改善を行っていく。特に、R80の全教科での実施を通して、教師の授業を構想する力・適切な問いを設定する力を高め、授業改善につなげていく。	○			○結果を期待している。	
		家庭学習の充実	○久井中ノートの活用(自主学習ノート) ○家庭学習の習慣化への働きかけ ○家庭学習の量(時間)の設定 ○家庭学習の質の向上	生徒アンケート「以前と比べて、家庭学習時間が増えましたか」の前回評価との比較において増えた生徒の割合	80%	比較対象なし	44.7%	55.9%	D	「以前と比べて学習時間が増えましたか」に対して「増えた」は44.7%で達成度は低く見えるが、「変わらない」が52.9%、「減った」が2.4%しかいないことから考えると、約半数の生徒が前期と比べて学習時間が増えたことになる。一定の成果を得ることができた。	○家庭学習の効果を上げるために、質と量の両方の観点から改善していく。 ○各学級での学級活動や各教科において自主学習の進め方を指導する。 ○クロムブックなどのICT端末を活用した家庭学習をより一層推進する。	○			○結果から、前期より学習時間が増えている。引き続き定着に向けて取り組んでほしい。 ○家庭学習が減った生徒が少ないことは、肯定的に捉えて良いと感じる。	
豊かな心の育成	自己肯定感が高い心豊かな子供の育成	不登校の未然防止 地域貢献意識の向上	○SSRの活用、相談体制の充実、小中連携の充実 ○生徒指導の三機能を活かした指導(積極的な生徒指導) ○生徒会活動の活性化(自治能力の育成) ○校則の見直し ○自主参加による地域ボランティア活動の充実	生徒アンケート「学校行事への満足度」の肯定的評価の割合	90%	95.3%	98.8%	100.0%	A	後期生徒アンケートにおいて、2・3学期に行った学校行事(自己アピールの仕方講座・マナー講座、職場体験学習、クインちゃんカップ、学習発表会等)の満足度での肯定的評価での割合は、1・2年生で100%、3年生では96.8%であった。学校行事に対する生徒の満足度はすばらしく高い。	○今後も日々の学校生活において、教員だけでなく生徒どうしても肯定的評価を伝え合っていく場をつくっていく。 ○行事後の振り返り時に、他学年や仲間についてメッセージを送るなど、まわりから良い評価を受ける機会を増やしていく。 ○今後も、子供たちにボランティア活動への参加を呼びかけ、地域貢献への意識向上を図る。また、来年度実施のコミュニティ・スクールの本格始動に向けて、学校と地域が学校教育目標等を共有し、地域とつながる教育活動を仕組んでいく。	○			○SSRの活用や相談体制の充実に期待している。 ○ボランティア活動の充実をさらに進めてほしい。 ○行事を通しての取組の中で、生徒の意欲が向上していることを嬉しく感じた。 ○生徒からの評価が高いことは、とても素晴らしいことである。	
健やかな身体 の育成	体力向上と健康教育の推進	新体力テストの分析による重点課題への取組 健康教育・食育の推進	○9カ年を見通した体力づくりのカリキュラムに基づく体育科授業の工夫改善 ○体力テストの分析結果をもとに、個々の課題克服のための具体的な運動の推奨 ○「金のルール」等に基づく生活指導(早寝、早起き、朝ご飯、食に関する関心の向上)	(10月)「体力・運動能力調査」で令和5年度県平均以上の種目の割合 (1月)「体力・運動能力調査」で令和6年度県平均以上の種目の割合(1月)	50%以上	87.5%	81.2%	100.0%	A	男子については、「ボール投げ」が県平均・全国平均よりも低かった。女子については、「20mシャトルラン」が県平均・全国平均よりも低かった。このことから、男子は巧緻性に課題があり、女子は全身持久力に課題があることがわかる。	○保健体育の授業において、単元に即した補強運動を継続的に取り入れていく。 ○球技等の領域において、ウォームアップの際に投げる運動を取り入れることで、動作の習得を図る。 ○陸上競技(長距離走)の領域において、個人の目標を明確に設定させ、継続的に持久力を高められるような意欲づけを行う。 ○クロムブック等を積極的に活用して、自分の動きや記録を振り返る活動を取り入れていく。	○			○部活動の充実に期待している。 ○高校生も体力低下が問題となっている。中学生の段階で体力づくりにはしっかりと取り組んでほしい。	
働き方改革の推進	ワークライフバランスの確立	開かれた学校づくり	○積極的な情報発信 ○上限目安時間を超えない時間管理(45時間/月) ○週1回(水曜日)の定時退校日の徹底 ○ボトムアップによる業務改善 ○働く者の意識改革・醸成(ワークライフバランス)	保護者アンケート「本校の教育活動に満足している」の肯定的評価の割合	80%	92.6%	91.8%	100.0%	A	保護者アンケート結果では、学校行事への満足度が高かった。また、すぐる等での情報発信についても肯定的な評価が高かった。	来年度から始まるコミュニティ・スクールに向けて、引き続き、今以上に丁寧な情報発信を行い、地域と共にある学校として信頼される学校づくりを推進していく。	○			○地域への情報発信をさらに進めてほしい。 ○保護者から信頼される学校になっている。	
		教職員の資質向上 不祥事根絶 長時間勤務の縮減	時間外の在校時間 月45時間以内の職員の割合	100%	57.1%	67.0%	57.1%	D	教職員15名の10月から12月末までの在校時間45時間以内の割合が67%であった。9月末までと比較すると改善してきており、時間を意識した働き方ができていることが成果である。しかし、依然として超過勤務の職員はおり、引き続き働き方改革に取り組んでいく。	○来年度に向けて行事等の内容を精選し、本当に必要なものだけを残す等、業務の見直しと仕事の効率化を図る。 ○業務ごとの役割分担を明確にし、個人に過度な負担がかからないようにする。 ○学校経営会議・準衛生委員会等で、教職員の心身の状態を情報交換し、現状把握とともにメンタルヘルス・マネジメントを行う。	○			○部活動との両立が課題であると感じている。 ○業務量も多いと思うが、働き方改革も進んでいるようなので、心身のバランスのためにも気をつけて業務にあたってほしい。 ○とても難しい問題だと思います。少しずつ改善してほしい。		

【j：自己評価 評価】

A: $100 \leq (\text{目標達成})$

B : $80 \leq (\text{ほぼ達成}) < 100$ D : $(\text{できていない}) < 60$

【1：学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である

口: 自己評価は適正でない ハ: わからない